

## 【教育目標】 ◎重点目標

- ◎深く考え、進んで学習する
- ◎責任を重んじ、規則正しく行動する
- ◎心身を鍛え、情操を豊かにする

## 【教育課題】

- ＜生徒＞ ・学びへの主体性の向上
- ＜教職員＞ ・授業力・生活指導力等の向上
- ・人権尊重、社会貢献意識の醸成
- ・組織体制の強化

### 1 学校経営の基本理念

#### 〈自ら学び、社会とつながり、ともに未来をつくる人〉の育成

子供たち一人ひとりが、自分らしく周囲の人々と協力して、予測困難な時代の未来の創り手となるよう、社会に開かれた学校教育を推進する。そのために、今までの教育活動を単に改良するのではなく、普遍的なものを見極めと革新によって授業で学ぶ知識・技能の学習内容や経験等が、それぞれ関連し合い、相互作用・相乗効果を生み出し、新たな高陵中学校の学びを生み出していくことを目指し、「自ら学び、社会とつながり、ともに未来をつくる人を育成する学校」とする。これらからともに未来をつくる人への第一歩を本校で踏み出せるようにする。これにより、持続可能な社会の担い手としての素地を習得させる。

### 2 目指す学校像

- ・生徒が夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を切り開く力をもてる学校
- ・教職員がやりがいを持ち、教育目標達成に向けて一丸となって取り組める学校
- ・保護者、地域から信頼され、ともに生徒を育てる学校

### 3 中期的経営目標と方策

- (1)あらゆる教育活動の場で、生徒自らが学びの主体者であると自覚をもち、授業や特別活動等で手応えや自分の成長や成果を実感できる指導を実施する。
- (2)いじめ・体罰等の根絶を図り、安全、安心な教育活動を展開するとともに居場所のある学校を構築する。
- (3)特別支援教育の充実及び不登校生徒の減少に向けた取組みの活性化

#### 主体的に学ぶ学力の向上【知】

- ・教授型から探求型への授業改革：生徒主体、意欲向上
- ・教科横断的な視点、単元編成の工夫：基礎学力の定着
- ・既習学習内容を生かした活用力の育成による学びの拡充：手ごたえ、達成感、積み残しの明確化と補完
- ・国際理解教育と外国語教育の推進 ・ICT活用の充実

#### 人権尊重の精神と豊かな心の育成【徳】

- ・あいさつ、おもいやりのある学校づくり
- ・規範意識の涵養 ・自己肯定（有用）感の育成
- ・自他の違いを認め、他者と協働し新たな価値観の創出を目指す態度の育成 ・生徒とともに考え、生徒がつくる行事、学校 ・道徳授業、体験活動の充実

#### 体力向上と健康増進【体】

- ・生涯を通じた健康管理能力の育成
- ・ライフステージに応じた運動の習慣化
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」：家庭連携
- ・食育の推進 心の健康：対人関係形成能力の育成 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進

#### サービスの厳正・安全管理の徹底・組織体制の充実

#### 魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

- ・SDGsを主軸にした教育活動の実施 ・人権に関する教員研修の充実
- ・日々の授業研究と校内研修の充実 ・失敗や挫折から立ち直れる居場所、信頼関係の構築：機動力ある相談体制 ・生徒会等の学校運営への参画
- ・特別支援教育の充実 ・不登校やいじめ問題への適切な対応：外部人材の活用 ・働き方改革（業務のスリム化、有給休暇の消化率増、組織力向上）

#### 学校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育【学校・家庭・地域】

- ・日常的な保護者との積極的会話 ・ホームページ等による情報発信
- ・地域施設・企業との連携による社会人としての経験の場を確保
- ・マイスクールPRコンペティションを通じた地域との交流、連携強化
- ・地域行事への参加・コミュニティスクールとの協働による教育活動の充実
- ・適正な学校評価と工夫 ・防災教育、ボランティア活動の充実（地域の一員）

## 4 中期的目標を達成するための具体的な方策

- (1) 教職員の**学校運営への参画意識**（実施方法の提案・検討・協議・実践・課題整理等）を高め、取組が進化するよう**組織で教育課程を確実に実践する**。
- (2) 生涯学び続ける力を培うため、**生徒が生きる未来社会を意識して自学自習の力**、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性を育てる。  
→各教科の見方・考え方を働かせて知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を高め対人関係能力の向上も図る授業を行う。  
また、**教科横断的な視点をもたせ、既習学習内容も生かした活用力を育成し学びの拡充**により、**手応え、達成感**を得て、学びに向かう力・人間性等を高め、各教科等が目指す資質・能力の向上につながる循環を創出する。これらにより、挑戦する意欲、失敗しても受け入れる集団の育成にもつなげる。
- (3) 生徒が主体的に学ぶ「**学び合い」「探究」を主軸にした授業改善**を行う。  
→教授型から探求型の授業改善に努める。また TT・少人数指導等の充実や進度別学習、複線型授業により個に応じた指導を進める。
- (4) 持続可能な社会の担い手として、各教科、総合的な学習の時間を有機的につなげ往還的な学習効果を得るために単元計画と学校行事等の配置を工夫する  
→外部関係機関の協力を得て「**本物に触れる時間**」をつくり、将来展望にも生かす。
- (5) ICT 機器を手段（文房具）とし、対話と協働を繰り返して**課題解決に向かう教育活動**を体系化する。
- (6) 教員自身が教育のトレンドを迅速に察知した**校内研修**を行い、授業改善をはじめとする生徒の**規範意識・思いやる心・生命尊重**を基調とした道徳実践力、特別活動への指導力をさらに育成する。  
→職層に応じた力量形成に直結する OIT 計画を基に、組織的に実施する。
- (7) 生徒の「**学校運営への参加（企画・運営・ルールづくり等）**」を活性化し、生徒とともにつくる学校を目指せるよう、教員の指導力の向上を図る。  
→専門委員会の充実を図り、よりよい高陵中学校づくりを経験させる。そのほか、得意分野を生かせる場をつくり学校貢献意識の醸成を目指す。  
ルールづくりは、人権を意識した視点をもたせるほか、自己解釈による自分勝手に生まないように留意する。
- (8) 地域・企業等と協働し、段階を追って、キャリア形成能力と**地域・社会貢献の意識（防災を含む）**を培う。（学校運営協議会との協働含む）
- (9) 特別支援教育の視点を生かし、個々の実態に応じた支援の充実と**多様性を包括する力**の育成を進める。  
→不登校対応：不登校生徒に対しては、学校や社会への適応する力を高めていくため、「心の問題」を理解するほか、将来の社会的自立に向けた支援を視野に入れた特別支援委員会での検討を行う。さらに学校・家庭・地域及び関係機関との関係者会議等の開催を初期段階で開催し、学校・地域・関係機関による支援と多様な学習の機会を生徒に提供していく。不登校の未然防止として学校全体の迅速な情報共有、初期段階での家庭との連携強化を図り、生徒の意欲の喚起につなげる。必要に応じて、来校できない生徒や保護者にはオンラインでの面談および教育相談を実施するなど、学校とのつながりが途切れない配慮ある対応を行う。
- (10) 誰もが受け入れられる対人関係の構築、相談体制の充実、居場所づくりにより、不登校・いじめ未然防止、早期発見、早期対処・解決を図る。  
→校内教育支援ルームの開設と効果的な実施を生活保健部会及び特別支援コーディネーターを中心に行う。

## 5 経営、指導上の留意点

- 学年、教科を超えて組織的に全教職員で全生徒の指導にあたる。発見時の即時指導ができるためには日々の情報共有を迅速に行う。
- 生徒が授業や生活指導等で分からない部分がある場合は、そのままにせず質問できる関係性をつくり、学びの積み残しやすれ違いを減少させる。
- 生徒同士、学年間、地域・企業等との「つながり」を意識し、キャリア教育上どうつながるか、先見性のある視点で連携する力をもつ。
- 教職員が経験できない職業に就くといわれる **society5.0** 時代を生きる人材を育てるという意識をもって、社会の趨勢を敏感に感じる感性を培う。
- 自らあいさつできる・正しい言葉遣い・基本的なマナーを、まずは大人から実践する。
- 職員自身も「挑戦」することを忘れず、「手応え」を感じる取組を常に念頭におく。